

の開始は秋のうちには始める予定ですが、本格化するのには来年に入ってからでしょう。

興福寺回廊の調査

この夏までの調査成果を受けて、中金堂院の回廊部分についても、来年早々に調査する予定です。これまで調査の及んでいない西面回廊をあけます。調査面積は狭いものとなるでしょう。

(平城宮跡発掘調査部)

(飛鳥藤原地区)

藤原京左京七条一坊西南坪の調査

橿原市営住宅建設工事に伴う事前調査。敷地約5000㎡について、4月から6月、7月から9月の二度にわけて調査する予定。場所は藤原宮に南接した東西大路（六条大路）と宮中央正面の南北大路（朱雀大路）に面した「一等地」にあたります。立地からして、正史に名を残す「有名人」の邸宅跡発見が期待されます。

石神遺跡の調査

1986年から行ってきた調査の継続。昨年度の第13次調査で検出した掘立柱塼と石組大溝からなる遺跡の北限施設の東延長部分を追求する学術調査。対象約600㎡。7月から9月。

藤原宮大極殿院東回廊地区の調査

昨年まで行ってきた大極殿・朝堂院地区の調査をより内側に展開。昭和10年代の日本古文化研究所の調査の再検討でもあります。対象約2000㎡。10月から来年3月までの予定。

藤原宮南面大垣・内堀・外堀の調査

近世溜池高所寺池の改修工事に伴う事前調査。高所寺池改修工事に伴う調査は昨年からの継続。今年では堤北辺～東辺北半について。対象約2000㎡。10月から来年1月までの予定。

藤原宮東方官衙地区の調査

橿原市道拡張と河川改修に伴う事前調査。調査予定面積160㎡。10月調査予定。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)

いて力点をおいた話を踏まえ、発掘調査の経営、実際、保存整備の現状、遺構、遺物の保存科学的処理法、出土遺物の整理法から報告書作成にいたるまでの個別事例を交えて、講義が進められました。

アンケート調査の結果、概ね好評であったが、遺跡保存と文化財保護法についての講義は特に人気がありました。

また、飛鳥・藤原地域の遺跡保存整備状況を各自自転車で訪ね、発掘調査から保存整備状況を実感できたのも好評でしたが、見学箇所が少し多すぎて消化しきれない研修生もいたようです。今後の検討課題としたい。

(埋蔵文化財センター)

秋篠宮同妃両殿下奈文研視察



お出迎えを受ける両殿下

秋篠宮同妃両殿下は5月21日（月）、奈良文化財研究所を訪問され、渡邊理事長、町田所長、長谷川文化庁文化財部長のお出迎えの後、平城京の説明や、年輪年代法に代表される木材の年代測定法などの説明を受けられました。

両殿下はまず、平城宮跡資料館にお入りになり、町田所長から古代の奈良の様子について説明を受けられました。

その後、樹木の年輪による年代測定法の研究が行われている埋蔵文化財センター古環境研究室では、



平城宮跡資料館で説明を受けられる両殿下

文化財関係研修の実施

埋蔵文化財担当事務職員一般研修

『埋蔵文化財基礎課程』終了

新世紀になって、平成13年度研修事業の第一弾として、5月8日から5月16日の日程で、事務職員を対象とした基礎研修をおこないました。

研修生は、北は北海道から南は熊本県にいたる総勢21名の参加でした。

研修の内容は、まず遺跡保存と文化財保護法につ